

小田原市文化振興審議会 第9回会議概要

1日 時 令和5年10月31日(火) 15:30~17:00

2場 所 小田原市役所 3階 全員協議会室

3出席者

(1) 委員

杉本委員、吉田委員、大石委員、白井委員、木村委員、萩原委員、鈴木委員、池田委員

(2) 行政

菊地文化部長、湯山文化部副部長、諏訪部文化政策課長、黄金井文化政策係長、
穂坂主査、今宮主任

4傍聴者 0人

5会議の概要

(1) 議題 (1) 令和4年度基本計画の評価について

・評価の内容について

事務局より説明

A 委員

基本目標4施策3の「国外に対し、文化に関するプロモーションの実施回数国外に対するプロモーション」とはどういったものを想定しているのか。

文化政策課長

デジタル化に伴う、ネット配信などができればいいと考えている。産業面でも小田原のものを海外に広めるという話もあると思うので、そういった際に文化も一緒に実現できればと考えている。

B 委員

デジタルミュージアムへのアクセスについて、海外からか市内からか、という判別はできるのか。

文化政策課長

どこからアクセスされているか判断できない。

基本目標4施策2「文化部内で、文化資源をデジタルアーカイブ化した件数」の、「R4年度勘案すべき内容」欄に、アクセス数93,000と記載しているが、本市のデジタルミュージアムへのアクセスが、近隣で行われている同様の事業に比べ、かなり数が多いという事は

聞いている。

B 委員

小田原三の丸ホールの事業参加者や来場者の中に、外国の方がどのくらいいるのかはわかるのか。

文化政策課長

数値を出すというのは、なかなか難しい。

C 委員

小田原三の丸ホールでカウントはしていない。

B 委員

文化活動に、外国の方が参加してくれると、より良いと思う。

文化政策課長

観光の際、イベントやツアーに参加していれば、把握している可能性はある。コロナ前は、松永記念館等で茶室の外国人利用があったりした。

B 委員

全体のデータを取るのは大変だが、松永記念館など建物毎にデータを取れるといい。

A 委員

コロナが収まっていくなかで、海外とのつながりが増えてくるかと思う。どのようにつながるか、考えていくことも必要である。

D 委員

天守閣の入場者数など、その中身は分析していないか。市民・市外の人・外国人など、分析は難しいかもしれないが、分析できたら次にやるべきアクションが見えてくる。いかに把握するかは、一つの課題だと思う。また、今回の評価に定性的な評価は含まれているか。

文化政策課長

「R4 年度勘案すべき内容」に定性的な評価となる内容を記載している。

B 委員

小田原三の丸ホールでは、アンケートなど取っていないのか。

C 委員

アンケートという形ではとっていない。利用者からの意見等を受け付けるツールはある。

文化政策課長

事業（イベント）ごとに、各主催者がアンケートを取っている。

B 委員

最近は、携帯電話の機能を利用して、器械を建物に取り付けるだけで、どんな人が来たか認識できる装置がある。

文化政策課長

観光の方で、そういった AI ビーコン等の機器を設置している場所はある。内部で確認してみる。

E 委員

自分の団体の活動では、必ずアンケートを取るようになっている。

アンケート内容は QR コードでも読み込めるし、ネット上のフォームでアンケート回答もできる。若い人たちは、わりと面倒がらずにやってくれる。無料であるし、意見を集めるには効果的である。利用してみてはどうか。

A 委員

小田原三の丸ホールには、記帳できるものなどあるか。

文化政策課長

小田原三の丸ホールに記帳できるものはないが、歴史的建造物にはアンケートがある。事業者と相談してみたい。

F 委員

「やや順調」の所見と、「順調」の所見との書きぶりに差異がない。どうして「やや順調」なのか、マイナス部分の内容を記載した方がいい。目標値については、修正が必要かと思うが、中間の時期に修正するという事で承知した。

B 委員

上にプラス、下にマイナス点を書いてもいいかもしれない。客観的に書いてもいい。

G 委員

「順調」にしても、中身はどうかという事があると思う、これからこういう所に力を入れていきます、という内容を記載してもいいのでは。

デジタルミュージアムは、非常に速いスピードで完成したと思う。デジタル化してほしいと考えていたところが、ほぼデジタルミュージアムで見れて感動した。市HPアーカイブの中にもいいものがあるし、小田原市が発行した研究等の文書や、フィルム等も整理して、デジタル化の中に組み入れていただき、外からのアクセスが簡単になるといい。

自分は今、映画館などの歴史を掘り起こしている。また、石井富之助氏のいい資料が図書館などに残っている。資料がどこにあるか、分かっていたら探すことができるが、一般の人が簡単に探せるようになったらよりいいと思っている。

B 委員

デジタルミュージアムのコンテンツは誰が決めているのか

文化政策課長

学芸員が中心となって実施している。分野等もあると思うが、担当は違う部署であるため、相談をさせていただく。

文化部長

デジタルミュージアムは大変好評いただいている。近々、関係団体から賞をいただく運びとなった。歴史的に貴重な資料のアーカイブ化はもちろん、どういうコンテンツに整理して、いかに見やすい形にするかという事も、今後進めていくことが重要。アーカイブの充実と合わせて、コンテンツの充実と二本立てでやっていくのが大事だと考えている。

G 委員

中央図書館などの専門家の意見も必要かと思う。全体でいい物ができるように進めていただければ。「小田原の歴史と文化」という冊子はいいい内容である。市内の学校には置いてあるが、一般市民が手に取ることはなかなかない。こういうものもデジタルで見れるといい。

B 委員

多様化が進んで、コンテンツはどんどん広がっていく。小田原は歴史があるので、期待している人もいっぱいいると思う。

文化政策課の事業がどれだけ知られているのだろうか。文化の日などに、文化政策課はこんなことやっている、と広められる機会があってもいいのでは。基本計画についても、もっと知ってもらえるように、アワードの機会等を利用して何かできればいい。

文化政策課長

基本計画の周知についていろいろ考えてはいるが、計画ができました、としてシンポジウムを行っても、人は集まらないと考えている。何かの機会にあわせて周知ができれば。

F 委員

観光との連携はどうなのか。観光と結び付けて、アピールするのもいいと思う。

文化政策課長

観光は、多くの地域の文化資源を利用しているな、と感じている。小田原三の丸ホールも隣の観光交流センターと情報共有しながら運営している。

芸術文化と観光との連携はまだ難しい部分もあるが、お城や建造物などがまち歩きツアーなどに組み込まれ、文化資源と観光との連携はできていると思っている。今後も観光課や観光協会などと情報共有しながらやっていく。

D 委員

基本計画には文化振興もあるが、「文化によるまちづくり」ということで、文化関係の人だけでなく、観光の人、観光協会・商業や商工会議所・文化団体、今後のことを考えれば教育分野など、いろいろな人が関わらないと、推進していくのは難しいと思っている。

関わるべき人たちが、基本計画を認識し、推進していく役割を担っていくのが大切だと考える。継続的に連携が取れるような、プラットフォームが必要ではないか。今後の課題、計画の進め方などをみんなで検討できる、「おだわらカルチャーコミッション」のようなものを作り、皆がつながって情報が共有できる環境を構築出来たらいいと考えていた。

B 委員

UDCOD（アーバンデザインセンター）でよく文化の話をしている。

小田原三の丸ホールに行くと、観光交流センターと建物が別でブリッジも渡れないため、文化と観光が分かれているなど感じることもある。もう少し融和した雰囲気が欲しい。

文化政策課長

建物の運営という意味ではわかれているが、情報共有は互いにしている。観光交流センターの前でイベント等もやっているの、今後も連携していきたい。

B 委員

確かにイベント等は行われているが、そこに文化を感じられるという感覚はない。あぁいった場所にこそ、観光協会の事務所を置いてほしい。

平塚では、一つのイベントを美術館や商店街で一定期間行い、ホールのチケットを商店街

に持って行くとサービスを受けられるなど、商店街と絡むようになっている。観光と文化と商業を、繋げていかないともったいない。

D 委員

観光も大事だが、市民が小田原の文化をきちんと知って、自分たちが素敵だな、と思えるようにならないと、子どもたちにも文化が浸透していかない。やはり、情報共有のためにもプラットフォームがあった方がいい。

B 委員

いろいろな立場の人が話し合う場は、あった方がいい。

基本計画が広まるように、アピール等取り組んでもらいたい。

G 委員

基本目標 2 施策 2「ホールの SNS フォロワー数」で、SNS のフォロワーが増えているが、小田原三の丸ホールの SNS は、小田原のイベント情報も流れていてとてもいい。

小田原に来る人に対し、週末のイベント情報等をまとめて確認できるものがあると、外から見る人にはとてもいい。東京・横浜の人は結構小田原に来ていて、さらに彼らはリピートする。特に若い人に向けて、小田原で楽しむ計画を作れるような仕組みがあるといいと思う。

B 会長

行政がやらないといけないと思わず、できる人とコラボすればいいのではないか。

・検討事項について

事務局より説明

E 委員

文化の日にちなんで、横浜にある象の鼻パークでアートワークを企画している。県が主催だが、誰が来てもよく、大きな画用紙にみんなと一緒に絵を描くというアートワーク。出会いの場ができて、アート体験もできる。そういう企画が、小田原でもできるといい。

B 委員

象の鼻パークは、アート活動スペースではなく実際は公園という位置づけ。管理会社が、その場所を利用して、現代アートを対象とした事業をやってくれている。小田原も参考にしていたら。

F 委員

アート作品を、お城などまち中のあちこちに置く、という事が時々やられている。全市的にもっとやってみてはどうか。まち中に、アート作品を常設してみてもいいと思う。

B 委員

そういったアイデアが、おだわらカルチャーアワードに応募されるといい。

D 委員

前橋では、モダン現代アートで人を呼ぶアクションを取ってる。

仕掛け人はある企業の社長で、前橋を全てリサーチして、コンセプトを現代アートに絞り、現代アートがあふれるまちとして、建築家に依頼して奇抜なホテルを作った。今、人が少しずつ集まり、活性化してきている。アートで人が呼べる、いい事例である。

小田原はいろいろなものがありすぎるので、絞ることが難しい。何でもあるのは強みだが、繋げていくのが難しい。やはり、行政がサポートする形で、たくさんあるものがつながるコミッションを作ることが必要と思っている。

B 委員

創造都市という考え方だと思う。静岡ではランデヴープロジェクトとして、旅館のグッズをアーティストとコラボして作った。ほとんど海外の芸術家だったようだが、もともと桶や下駄を知らないアーティストが、五角形の下駄をデザインして話題になり、産業も推進した。

A 委員

自分でやろうと思うと大変だが、身近なところでやりたいという思いはある。ちょっとした舞台など、発信する場として使用できる場所・システムがあるといいなと思う。

B 委員

今、都市計画課で駅からお城のエリアマネジメントを実施している。社会実験をしなくてはならず、空きスペースの活用なども研究している。彼らにコンテンツを持って相談に行ってもいいのでは。

G 委員

観光交流センターでヴァイオリン演奏しているのを聞いたことがあるが、ああいった体験に感動した。いろんな場でいろいろな経験ができる。これが、まち中でできるといいと思う。

また、取り壊される市民会館・市立病院にあった絵画が、今後どうなってしまうのか気になっている。文化を受け入れ、芸術作品を大事するまちだという事も、小田原ならではのま

ちづくり基本計画の姿勢に結び付く。病院などでは、絵を見ていると癒される。

B 委員

最近デジタルでも映像等が再現できる。

老舗の名家には、お宝がたくさんあると思うのでそれらを展示会させてもらってもいいと思う。庭に美術品を展示するのもいい。物自体も価値があるが、物にまつわるストーリーにも価値がある。

様々な案を、社会実験をしてみてもいいだろうし、都市計画課や企画政策課の方にもお願いしてみるのもいいのではないか。UDCODでも同じような事をやっているのだから、調整する。

D 委員

二の丸広場は、構築物が作れない所なので、イベントごとに、毎回舞台を作って、壊すという事を繰り返している。いつも使えるようなものがあると、屋外コンサートなどもできる。

B 委員

小田原の史跡の中は規制も多く、都市公園も少ないので、そういった場所を作ることも大事だと思っている。

(1) 議題 (2) おだわらカルチャーアワードについて

事務局より説明

・最終審査は、ラウンドフェスのように、1週間程度街中でやってもらうという方法もある。